

**F C募集開始2年で30拠点を突破
個人開業に強み持つ中古車買取F C
ハッピーカーズ ●ハッピーカーズ／神奈川県藤沢市**



新佛千治社長 (46)

中 古車買取・販売の「ハッピーカーズ」の outlet が好調だ。今年5月だけでも新規で6拠点がオープンし、拠点数も30カ所を突破している。現在は直営2カ所・F C 30カ所を運営しており、年内までに50拠点の体制を見込む。

同社のビジネスモデルは、車を買いたい人から買い取り、それをオークションなどを通じて販売する。売り手を探す方法としては、中古車査定サイト上での入札や自身の知人や友人からの紹介などがメインとなる。実際に査定が入ると現地へ赴き、現金で買い取り。そ

の後自分で運転、もしくは陸送を外注するなどしてオークション会場へ出品し、売却する。オークション会社が車のチェックもしてくれ、上で引き取ってくれるので、クレームや売れ残りのリスクも発生しない。

もちろん、自身の身の回りで購入を希望する人がいれば、そちらへ販売することも可能。また最短で、販売した翌日にはその代金を得られるため、資金繰りのリスクも低くなる。同社のF C店のほとんどが自宅でオーナー1人で事業を行っているが、それでも月に100万円以上の利益を上げるオーナーもいるという。

「当社は大手のロードサイドチェーンと異なり、店舗を持たない上、商圏も事務所から半径500m圏内となります。そのため、すぐに現場に赴ける小回りさもあることから、お客さんに喜んでもらえて、さらに口コミなどでどんどん仕事が広がっていくのです」

また最近では本部で集客した案件を各地のF Cへ送客することも行っているが、「元々のビジネスは人口5万人の商圏でも成り立つので、むしろ田舎が強い」（新佛社長）という。

ることから、お客さんに喜んでもらえて、さらに口コミなどでどんどん仕事が広がっていくのです」

また最近では本部で集客した案件を各地のF Cへ送客することも行っているが、「元々のビジネスは人口5万人の商圏でも成り立つので、むしろ田舎が強い」（新佛社長）という。

**往診獣医と動物病院でF C募集を本格化
ターミナル病院とIT化で開業を支援**

anidoc往診ネットワーク・anidocどうぶつ病院
●アニドック／東京都渋谷区



野中英樹社長 (54)

ほかにも同社では、月に一度のペースで定期開催している加盟予定者向け研修会に、既存加盟店が参加することも許可している。こうしたサポートを通じて加盟店とのコミュニケーションも円滑に行うことで、累計退会者が1名という脱退率の低さも同社の特徴だ。

ット共生型住宅を展開するアニドックは今年2月、日経フランチャイズショーに初出展。獣医師の課題解決を目的とした「anidoc往診ネットワーク」と「anidocどうぶつ病院」のフランチャイズ展開を打ち出した。

「anidoc往診ネットワーク」は、サービスに登録した獣医師へ依頼があれば、患者のいる家に駆けつけて診断・医療方針を下すサー

ビス。現在、全国にある動物病院の9割以上は個人経営で、ペットの高齢化に対して有効な対策がとられず、長時間労働などの理由で獣医師にならない有資格者も一定数いる。同社はターミナル病院の設置と、自社開発のITシステムやネットワークで差別化。電子カルテの記入からクレジットカード決済での会計、青色申告まですべて完了する。加盟条件は獣医師資格を持ち、3年以上の臨床経験があること。既存の動物病院や業績が低迷する往診医が対象だ。同社がセットで加入を勧めるのは「anidocどうぶつ病院」だ。専門雑誌の発行や本部からモバイルサービス「animo」でペットの管理、販促ノウハウ等の支援が受けられ、ペット共生型マンションでの開業も期待できる。

個人で動物病院を開業する場合、通常は初期投資4000〜5000万円、単月黒字化するまで1億円ほどが必要だが、同社の場合は初期投資4500万円、運転資金2500万円ほどで開業が可能だ。

「anidoc往診ネットワーク」は、サービスに登録した獣医師へ依頼があれば、患者のいる家に駆けつけて診断・医療方針を下すサー

【訂正】弊紙6月号において、以下に誤りがありましたので訂正します。
P 35 早稲田エルダリーヘルス事業団の記事内
誤→加盟金1000万円
↓正→加盟金1000万円